

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091300048		
法人名	株式会社 ケアリング		
事業所名	グループホーム 竹の庵		
所在地	〒814-0142 福岡県福岡市城南区片江1丁目20番10号 092-865-5444		
自己評価作成日	平成 24年06月14日	評価結果確定日	平成24年07月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>竹の庵では、スタッフ研修に力を入れており、毎月、外部研修や内部研修を実施している。認知症に関する研修や介護技術に関すること、また事例検討を通して入居者の個別の課題に対して全スタッフが積極的に取り組む環境にある。それによって、実際に取り組むことにより、改善されたことも多い。各スタッフは、研修の内容を当事業所で活用するためにはという姿勢で学び、実践している。その結果、訪問診療や訪問歯科の先生からも介護環境について高い評価を受けている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>天然木材を使用した、こだわりのオール木材住宅の「竹の庵」は、城南区の閑静な住宅地に位置し、デイサービス併設のグループホームである。ホームの理念を、毎年職員が検討し、変更しながら、目標を掲げ、一丸となって取り組み、利用者一人ひとりのペースを、見守りながら介護する職員に対する、家族の評価は、高いものがある。開設3年目であるが、地域の行事や、公民館活動に利用者や職員が参加し、散歩の途中に近所に寄り寄り、隣家の庭を貸してもらおう等、活発な交流が始まっている。主治医による2週間毎の往診、ケアマネで看護師の的確な判断と、無農薬米を使った、自然食品の調理は、利用者の健康管理体制に結び付いている。また、近隣のグループホームとの交流は活発で、相互訪問や、運営推進会議への相互参加し、信頼関係を構築しているグループホーム「竹の庵」である。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhyou.jp/kai gos ip/Top.do?PCD=40
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 24年07月04日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に一度、理念の見直しを行っている。理念についての評価や、研修で学んだ知識を基に、より良いサービスの向上を目指している。スタッフ全員の意見の総意とし、勤務前に毎日唱和している。	職員全員で話し合い、毎年理念を見直し、「日々の目標を持つ、協同生活の中で安心して自分らしく暮らす、人生の先輩であることを忘れずに思いやりを持って接する、自分に余裕を持ち、スタッフ同士協力し合いゆったりとした環境作り」という理念の実践を目指している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方からのご招待を受け、お宅訪問をしている。雑貨屋・お茶屋など近くの店に買い物にも行っている。また、公民館で開催される催し物には毎回参加し、馴染みの関係を作っている。	近隣の方から、「散歩時に、庭の花や絵を見に立ち寄ってください」というメッセージをもらったり、近所の雑貨屋では、買い物や雑談等の交流がある。また、公民館の映画鑑賞会に参加したり、ホーム主催の防災講座に地域の方の参加がある等、交流が深まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中でも取り上げているが、当事業所で認知症サポーター講座開催を提案したりしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第三水曜日に定期的開催している。近隣のグループホームにも声掛けをし、管理者同士で相互に参加して情報交換を行っている。	2ヶ月毎に定期開催し、入居者、地域代表、行政職員に加え、他グループホーム管理者の参加等委員拡大に努め、充実した情報、意見交換を行なっている。会議の中で、事例検討を行い、ホームに対する提案が出され、運営に反映できるよう努力している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば、電話等で其の都度、相談や確認を行っている。	グループホーム協議会の勉強会で、行政と意見交換をしたり、運営推進会議に行政職員が参加し、情報交換をし、アドバイスをもらっている。また、わからない事が発生した時は、行政担当窓口はその都度相談し協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例があったが、定期的なカンファレンスを行い、常に状況を把握することで廃止することができた。また、事例発表を通して身体拘束について事業所全体で取り組んだ。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、拘束をしないためにどのような介護をするのか事例検討を行ない、利用者一人ひとりに合わせて話し合いを重ね、安全で安心した暮らしを支えるための支援をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、その内容を他のスタッフに報告する機会を設け、全スタッフが理解できるように環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部研修に参加し、その内容を他のスタッフに報告する機会を設け、全スタッフが理解できるように環境作りをしている。	制度の資料やパンフレットを用意し、外部研修に参加した職員が勉強会で報告し、全職員が理解し、利用者や家族が必要な時に、制度活用のための支援体制が確立されている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご家族様に対して、契約書・重要事項説明書を基に説明を行っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様から出される意見は、毎日の申し送りやミーティング時に周知し、結果を報告まで行っている。	家族の面会時や電話等で、出来るだけコミュニケーションをとり、要望を聞き取るようにしている。また、年3回家族会を開催し、多くの家族参加のもと、家族同士の交流も深まり、そこで出された意見をホーム運営に反映させている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにおいて、運営上の問題点や改善してほしい点を挙げてもらっています。すぐに改善できる点はその場で決定し、その後は進捗状況を確認しながら、改善しています。	職員会議は毎月定期的に開催し、時間の経つのを忘れる程、活発な会議になっている。また、管理者は、日頃からあらゆる面で、職員の自主性を重んじ、自主的に動いてもらい、事後報告を奨励している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境の整備として、当事業所の全職員を社員化した。また、外部研修を充実させ、スタッフが介護技術・知識の習得しやすい環境を整備している。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	当事業所では、採用に当たっては何の区分もない。高齢のスタッフの採用や未経験スタッフも積極的に雇用している。資格や経験の有無に関わらずお互いがカバーしあいながら働けるように配慮している。	職員は、経験や資格より人物本位で採用している。休憩室にゆっくり横になれるソファを用意し、リフレッシュしながら生き生きと働ける環境作りを努めている。また、今年度は、職員研修に力を入れ、職員の質の向上と、意識の高揚を図り、職員の定着に結び付けている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ケアリングでは、入居者様に対して出来る限り、個人の意思を尊重して対応している。人生の先輩として敬いの念をもって接している。		
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・計画作成担当者が中心となり、介護技術、その都度、アドバイスをしたり、社外研修制度を設け、自発的に研修を受けれる態勢を整えている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、定期的に他事業所の職員と情報交流会に参加している。また、運営推進会議にも相互参加をしながらネットワーク環境の構築を図っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	身体面の課題や生活歴からの情報を加味し、ケアの状態など客観的に不安や要望を捉えている。実施後の反応から安心されたかどうかを判断している。	
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会やケアプランの説明時、ケアの状況報告だけでなく、要望も聞いている。その中で、薬の変更など、家族の希望を聞き主治医と連携調整をし要望にこたえたケースなどがある。	
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の状況によっては、通院させることができないため、当事業所の職員が通院介助や入院退院の対応をすることもある。	
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	パーソンセンタードケアを実践し、常に入居者様の視点に立ち接している。相手のペースに合わせ「待つ」ことを持ち、自立(自律)支援のために何をすべきかを考え、接している。	
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の関わりとしては、公共交通機関を使った定期的な外出、行きつけの床屋、面会時に職員からアドバイスを受けながら歩行介助されるご家族もおられる。	
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室の方の協力を得て、関係が途切れないように定期的に通っている。また、知人からの電話の取次ぎなども行っている。	友人の訪問や電話も多い。また、馴染みの美容院や店での買い物等、家族と協力しながら、馴染みの関係継続のための支援をしている。
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者からの干渉を受けやすい方は、個別に職員と居室で食事をしている。日常では、テーブルの配置など配慮をしてストレスにかなないように心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や終末期介護に関して、本人や家族の意向や不安を伺いながら、最良の方法を支援できるように努めている。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事は皆そろって食べることが習慣になっているが、身体的、性格的、生活歴などから職員の勤務時間を一時的に変更したり、時間をずらしたり、場所をかえたりしている。	職員は、利用者に寄り添い、話をしながら意向の把握に努めている。意向表出の困難な利用者に対しては、表情から察知し、アセスメントを見直し、家族と相談して把握する努力をしている。利用者一人ひとりの様子を見ながらの個別の対応が利用者の自立に繋がっている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に日々の生活状況を説明すると同時に、時折見せられるほのぼのとした仕草や会話をお伝えすると若い頃の思い出を聞かせていただくこともある。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックのほか、既往歴、認知症の進行状況、他の疾患、BPSDの状態などを観察。また、排泄状況、水分摂取量等を見ながら身体状況の把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月毎のプラン見直しには各担当職員が内容の実施状況を確認している。毎日の申し送り時には、アセスメントとして挙る課題もある。その都度対応を検討し、全職員に周知され実施。その後再検討を行っている。	介護計画は、利用者や家族の希望を聞き取り、担当職員が確認を行い、関係者で検討し、3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に対しては、その都度家族と相談し、方針を共有しながら介護計画を見直している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録は管理者が確認し、課題等に関して重要な記述にはマーカーをして職員が情報を共有しやすいように努めている。急遽プランを追加するときは赤字で記入している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3ヵ月毎のプラン更新でも、細かな部分では絶えず変化がある。その時々の変化に対応するべく追加プランを介護記録に記入し、更新時にまだ継続するようであれば計画書に明記する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物に年間で2～3回参加させていただいている。地域の方の受け入れも概ね好意的である。また近隣の店舗へ個人の買い物に行くこともある。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療がある。精査が必要であれば主治医に相談し情報提供を依頼し、他院への受診してもらう。その都度、看護添書を渡す。	利用者や家族と話し合い、納得の上で、かかりつけ医の受診支援をしている。主治医による2週間毎の往診と緊急時の素早い対応に加え、ケアマネであるベテラン看護師の的確な判断で、利用者が安心して適切な医療を受ける事が出来る体制がある。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職から、日ごろの小さな異変に対して気づきがあった場合は相談をする。その状況を検討して必要に応じて主治医へ報告している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、その都度看護添書渡している。その中には生活状況も詳細に記入している。また、ケアプランも添付する。退院時は事前に家族と共にカンファレンスに参加し、リハビリに関しては家族の意向を拝聴し受け入れがスムーズに行えるようしている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針については現在作成中である。ご家族の中には延命治療を望まない意思表示されている。また、家族会の中でも議題に挙げ、時間をかけて本人や家族が望むように取り組んでいる。	利用者の重度化に向けた支援体制を確立するため、家族会等の機会に家族の思いを聴き、個別でも話し合い、方針を共有し、重度化に向けた支援を実施する体制を整えつつある。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救急救命講習にスタッフは参加している。また、入居者に異変があるときは、看護師の指導の下、対応の仕方を実践的に学んでいる。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方を招き、防災講座を開催している。災害対策としては、毎年夜間対応の訓練は行っている。年間2回防災の日を決め、非常食を食べたり非常用のグッズの使用方法を周知している。	消防署の指導を得て、年2回避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練も行っている。また、災害時に備え、年2回試食も兼ねて非常食、飲料水、備品の点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調にならないように心がけている。特にトイレ誘導の時には、小声でさりげなく誘導している。	職員と利用者は、家族のような関係でありながら職員は利用者を敬愛し、常にプライドを傷つけない介護サービスを意識しながら取り組んでいる。また、個人情報の記録については、人目に触れないよう保管する事を検討中である。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しかける時には短文で、ゆっくり、落ち着いた口調で話すを意識している。表現できる方は傾聴し、表現できない方は、表情や雰囲気、生活歴から想像し、『はい』『いいえ』で答えられるように問いかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活としてのルールの範囲のなかで柔軟に業務内容を変更し、希望に沿って生活できるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	使い慣れた鏡台の前で整容を促している。また、行動障害のある方は、別の部屋で着替えていただくこともある。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の雰囲気には十分配慮し、落ち着いた雰囲気ですることができるようになっている。食器拭きは自分たちの役割だと認識している。利用者からの要望で、食事の準備は当番制となっている。	精米して炊き上げのご飯、新鮮な食材を使った美味しい食事は、利用者の楽しみである。利用者と職員が同じテーブルで食事をする光景は、会話も弾み、楽しそうである。また、利用者の残存能力に合わせて、もやしの根切り等の下ごしらえや配膳、後片付けを手伝ってもらっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量に関しては摂取量が1200ml前後になるように定期的に提供し、内容が偏らないように何を提供したかを記録している。食事は、状態に合わせた量を提供し、野菜を中心に高齢者が献立作りを心掛けている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。また、定期的な訪問歯科往診でケアを行っている。年に1~2回口腔セミナーを開催し、ケアの向上を図っており主治医からは口腔状態については評価を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握するのはもちろんのこと、紙おむつの使用方法についても業者の方を招き、性能や使い方を指導し頂いている。その結果、半年で、約半分の使用量になった。	職員は、排泄の自立を目指し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。また、おむつの使用の増加に伴い、講師を呼んで、研修し、利用者一人ひとりに合わせた対応を実践し、使用量を半分に減らす事が出来た。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心のメニューで献立をつくり、水分の摂取状況を把握し調整している。トイレでは腹部マッサージを行ったり、生活の中で歩行訓練や階段昇降など生活に密着した運動を取り入れている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂が好みの方には、その気持ちに沿うように早めに声掛けをしている。レクレーション中の時などは声掛けのタイミングをずらしたりしている。	週3回の入浴であるが、利用者の希望により毎日入ったり、体調や気分を見ながら中止する等、柔軟な対応が取られている。また、柚子、ザボンや入浴剤を入れる等、入浴が楽しめるよう工夫している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、傾眠傾向の強い方には時間を決め居室でぐっすり眠ってもらえるように促している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自、把握しており複数のスタッフで確認しあうことで与薬ミスの防止に努めている。薬の効果や副作用については、往診時にDrに報告し調整の指示を受けている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割としては、食器拭き、食事の準備、洗濯物(干す、たたむ、収納)など個別に行っている。楽しみとしては、園芸や新聞読みなどがある。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	短時間の散歩や買い物希望がある時などは、外出できるようにその日のスタッフで調整して対応している。定期的に、家族と一緒に外出される方もおられる。	利用者のその日の状態や意向を考慮し、出来るだけ戸外で過ごせるよう努力をしている。買い物や外食、外泊等、家族の協力を得て出かけ、一日一日を生き生きと充実した暮らしになるよう支援をしている。個別対応の買い物その他、山笠を見に行く事も計画中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から訴えがある場合は、財布にお金を入れている。また、購入希望がある場合は、一緒に買いにいったりしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への訴えがあるときには、深夜・早朝以外は電話をかけていただいている。また、海外の家族からもできるだけ取り次げるように配慮をしている。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダにはプランターを置き、季節の花々を楽しめるようにしている。温度や、湿度は頻繁に確認し、過ごしやすい環境づくりに努めている。	1階にデイサービスを併設した2階部分のフロアーは、天然木の大きな梁と和風の趣の照明で温かい家庭的な雰囲気である。リビングでは利用者同士が会話したり、創作活動や高齢者有酸素運動を行なう等、楽しく過ごす事が出来る共用空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置や、人間関係を考慮し、ストレスを感じにくいように配慮している。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	殺風景な居室の方には、ご家族に相談し、使い慣れた家具や思い入れのある品物を置いていただくようにしている。その結果、非常に落ち着かれた方が多くなっている。	居室には洗面台を設置している。家族にお願いして、自宅から使い慣れた筆筒や鏡台等を持ち込んでもらい、落ち着いた雰囲気の中で暮らしを支援している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、取り込んだり、その方の自主性を尊重し、見守ったりして支援している。		